



思いを伝え、思いを受け止める

昨日、卒業式の予行演習を行いました。予行演習ですから、限りなく本番どおりに進めました。普段なら気になる雨音が、耳に入らないほど真剣な雰囲気でした。

卒業式には二つの山場があります。一つは、卒業証書授与です。卒業生、一人ひとりに手渡します。呼名に返事して登壇し、証書を授かり、降壇します。ピリッとした晴れ姿に近づいています。



もう一つは、“別れの言葉”です（写真↑）。在校生は、学年を追う毎にこれまでの思い出を中心に感謝とお祝いの思いを伝えます。卒業生は、卒業への感謝と未来への希望を伝えます。大切なのは、覚えたセリフとして言うのではなく、セリフに乗せて自分の気持ちを伝える、ここだと考えます。このような真剣な経験が、大事な場面で自分の考えや気持ちを使えることができる、そして、受け止めることができる力になっていきます。たった一言かもしれませんが、未来への大切な一言です。

卒業式で求められる立ち振る舞いは、学びを身に付けようとする日頃の学習の成果と、ご家庭や学校生活で繰り返し高めてきた社会性が反映されます。そして、行事が大きければ大きいほど、その目的が明らかな分、目的に迫っていく力を確実に学ぶ機会となります。卒業式を始め、学年末の諸行事は、児童がそれぞれの学年の学びを元に、グッと成長する絶好のチャンスです。

今日は6年生の修了式、明日、卒業証書授与式です。天候が刻々と変化しています。体調維持にご配慮いただき、卒業生はもとより全児童が健康に参加できることを願うばかりです。上下標準服着用での参加にもご協力いただきありがとうございます。

□ “We love ♥ 福井”の学習から

6年生が1年間取り組んできた総合学習「We love ♥ 福井」の成果を、5年生に発表しました(→写真)。何もないと思っていたふるさとに、たくさんの価値あるモノ、ことを見だし、何より交流を通して地域の方々のあたたかさを実感しました。6年生となり、ぐ〜んと成長してきた秘密を見せていただきました。

人が育つには、心が育たなければなりません。

